

1 令和7年度における施策の取組

名古屋市地域公共交通計画（令和6年3月策定）に記載している施策に基づき、取組状況を整理しました。
令和8年2月17日開催の令和7年度第2回名古屋市地域公共交通協議会で頂いた意見を踏まえて修正しました。

実施施策	2024	2025	2026	2027	2028	R7年度の主な取組（赤字は更新箇所）	
（１）公共交通による移動サービス水準の維持・確保							
① 求められる役割に合わせた公共交通の維持・確保					計画に記載	・葉の役割を担うデマンド交通に係る実証実験（西福田学区） 公共交通空白地を含む学区のうち、地域が主体的に交通課題の解決に取り組んでいる西福田学区において、令和6年度の実証実験を踏まえ高齢者割引等を導入して実証実験を行うとともに、葉の役割を担う地域ニーズに即した交通支援制度を検討。 平均利用者数：19.7人/日（運行期間 令和7年8月18日～令和8年2月17日）	
					計画推進に資する	・日本版ライドシェア 名古屋交通圏において、道路運送法78条3号の許可による日本版ライドシェア（自家用車活用事業）が運行中。（令和6年4月26日運行開始） ・mobi 千種区において4年間運行していたが、事業収支の悪化により事業廃止。（令和7年12月31日）	
②公共交通のわかりやすさ・使いやすさの向上と利用促進					計画に記載	・WEBサイトにおけるバスルートマップによる情報提供（名古屋市におけるバス路線図の作成） バスの利用促進をはかるため任意の停留所を選択し、その停留所を通過する系統の全てを地図上に表示する機能が追加された「なごや乗換ナビ」をWEB上で公開中。 ・ 緑区において、より便利に公共交通機関を利用してもらうために、市バス・名鉄バス・地下鉄・JR・名鉄の運行に関する「交通ガイドマップ」を作成。	
					計画推進に資する	・バリアフリールート情報提供 誰もが駅周辺の移動をスムーズに行えるための情報提供として、バリアフリーマップ公開中。 ・日本版ライドシェア【再掲】 名古屋交通圏において、道路運送法78条3号の許可による日本版ライドシェア（自家用車活用事業）が運行中。（令和6年4月26日運行開始）	
③ ガイドウェイバスへの自動運転技術の実装					計画に記載	・自動運転技術の実装に向けた取組み 高架区間特有の課題（狭さ、急カーブ、横風など）解決に向け、実験計画案の作成等を実施。	
（２）地域の実情に応じた移動手段の確保							
① 交通支援制度を活用した新たな移動手段の導入					計画に記載	・交通支援制度を検討するための実証実験（西福田学区） 公共交通空白地を含む学区のうち、地域が主体的に交通課題の解決に取り組んでいる西福田学区を交通支援制度を検討するためのモデルケースとして、令和6年度の実証実験を踏まえ高齢者割引等を導入して実証実験を実施。 平均利用者数：19.7人/日（運行期間 令和7年8月18日～令和8年2月17日）【再掲】	
（３）先進技術を活用したシームレスな移動環境の形成							
① AI技術を活用した新たな移動手段の導入検討					計画に記載	・AI技術を活用した新たな移動手段の導入検討に係る実証実験 公共交通空白地を含む学区のうち、地域が主体的に交通課題の解決に取り組んでいる西福田学区において、AI技術を活用したデマンド交通実証実験を実施。	
					計画推進に資する	・mobi【再掲】 千種区において4年間運行していたが、事業収支の悪化により事業廃止。（令和7年12月31日）	
② MaaSの実現					計画に記載	・MaaSアプリを活用した新たな移動手段の導入検討に係る実証実験 公共交通空白地を含む学区のうち、地域が主体的に交通課題の解決に取り組んでいる西福田学区において、MaaSアプリ（名古屋市版マイクロMaaS：デライド）を活用したデマンド交通実証実験を、令和7年度はWebチケット（回数券）を導入して実施。 アプリ予約件数：1,863件、60%（総予約件数：3,105件） Webチケット利用件数：40件（総利用件数：3,621件） （運行期間 令和7年8月18日～令和8年2月17日）	
						・エリア版MaaSアプリ「CentX」においてSRTとの連携 マイSRT機能の提供を開始、Webチケットによる企画乗車券の発売を開始	
						・「標準的なバス情報フォーマット」に準拠した情報の整備 「標準的なバス情報フォーマット」に準拠した情報の提供を開始。（ デジタルサイネージ・BUS-Vision・GTFS-RT/乗換案内アプリ等 ）	
③ 環境にやさしい交通の促進					計画に記載	・市バスにおける燃料電池バスの試行導入（令和5年4月1日運行開始） ・なごや観光ルートバス「メーグル」における燃料電池バスの導入（1両目：令和6年3月31日運行開始、 2両目：令和8年3月28日運行開始 ） ・市バスにおける電気バスの 試行導入（令和8年3月25日運行開始） ・名鉄バスにおいて、燃料電池車、EV車、リニューアブルディーゼル使用車両を導入 ・各交通事業者、公共交通利用促進に向けた取組を実施	
④ データを活用した移動実態調査・分析					計画に記載	・令和6年度に実施した人流ビッグデータ等を活用した都心部の移動実態調査や、公共交通の利用状況等のデータを用いた現況調査等を踏まえて、まちづくりと連携した移動手段を検討	
⑤ 回遊性を高めるための新たな路面公共交通システム「SRT」の導入					計画に記載	・SRT「名古屋駅－栄」系統の運行を開始 ・SRT「名古屋駅－名古屋城」系統の運行に向けた調整を実施 ・エリア版MaaSアプリ「CentX」との連携	

2 環境にやさしい交通の促進に向けた取組

環境にやさしい交通の促進に向けた取組について、各交通事業者の取組状況を整理しました。

交通事業者名	R7年度の主な取組、R8実施予定（赤字は更新箇所）	
	車両・設備等に関すること	利用促進に関すること
東海旅客鉄道株式会社	・CO2直接排出（当社排出量のうち約5％）削減に向けた取り組み ・ハイブリッド方式車両（HC85系）の投入 ⇒従来気動車（キハ85系）との比較で軽油消費量約30％削減 ・水素動力車両の開発・蓄電池車に関する調査研究 ・CO2間接排出（当社排出量のうち約95％）削減に向けた取組み ・東海道新幹線における省エネ型車両（N700S）の投入 ⇒従来車両（300系）との比較で電力消費量約28％削減 ・在来線における省エネ車両（315系）の投入 ⇒従来車両（211系）との比較で電力消費量約35％削減	・公共交通の利用促進
名古屋鉄道株式会社	・省エネ車両の導入（R7年度：通勤型車両9500系および9100系の新造計30両） ・新技術を活用した再生電力の有効活用を検討	・CentXを活用した公共交通の利用促進として、イベント情報配信やデジタルチケット・クーポンのプレゼントキャンペーン等を実施 ・2025年8月1日～2025年9月30日、および2025年12月24日～2026年2月28日の期間中、小児用manacaの利用運賃相当額をmanacaマイレージポイントで全額還元する「こどもmanaca おでかけキャンペーン」を実施
近畿日本鉄道株式会社	・省エネ車両（1A系）の導入 ⇒従来車両と比較して電力消費量約45％削減	・2024年9月19日付でプレスリリースしたとおり、2024年10月1日(火)から当分の間、「ＩＣカードでこども半額キャンペーン」を実施 （HP）https://www.kintetsu.co.jp/gyoumu/tabiiku/
名古屋市交通局	・電気バスの試行導入 令和8年3月25日運行開始 ・バス車両の更新 最新排出ガス規制適合車への更新を実施 R6年度107両、R7年度106両、R8年度101両 ・照明のLED化 省エネ効果の高いLED照明への更新 ・エコドライブの推進 エコドライブ研修の実施、デジタルタコグラフ付ドライブレコーダーの活用	・公共交通利用の促進 市バス・地下鉄に親しみを持ってもらえる活動、駅などにおける公共交通の利用をPRするポスターの掲示など
名古屋臨海高速鉄道株式会社	・照明のLED化 車内照明のLED化完了、駅構内の照明を順次LED化	・公共交通の利用促進 あおなみ線のチラシに公共交通の利用を促す文言を掲載し、駅等で配布
愛知高速交通株式会社	・令和7年度、リニモ車内の照明をLED化完了。令和8年度も駅構内の照明を順次LED化 ・車両の推進装置（VVVFインバータ）を順次更新し、電気効率の良いものに取替え ・駅構内のエアコンを省エネタイプエアコンへ順次更新 ・駅務室や本社において電気やエアコンのスイッチ部分に「節電を呼びかける案内」を貼り周知	・公共交通の利用促進 令和7年にリニモ20周年事業を実施（イラストコンテスト、車両基地開放イベント、ノベルティ配布等）一日乗車券購入者にノベルティプレゼント（2025年3月25日～2025年9月25日まで） 通学定期券販促チラシを沿線大学へ配布
名古屋ガイドウェイバス株式会社	・CO2直接排出削減に向けた取り組みとして、全ての車両にハイブリッド車両を導入 ・再生可能エネルギーの調達として本社の屋根上に太陽光パネルを設置	—
株式会社JR東海交通事業	—	・鉄道へのモードチェンジが環境にやさしいこと（鉄道利用促進への取り組み） 2025.3.15ダイヤ改正において、平日の朝通勤帯を除く、全日全時間帯において、パターンダイヤを導入し、お客さまにわかりやすくすることで利便性向上（＝時刻検索しなくとも毎時何分と覚えていただける）と利用の促進（開業以来、初めての白紙ダイヤ改正） ・2026(R8)年度においては、上記ダイヤを維持することとした。※改正前と比較し1往復減便にも関わらず、ご利用前年度比3%増を継続。改正後1年を経て、実績が一巡した後も増加傾向を維持中。
名鉄バス株式会社	・令和7年4月よりリニューアルブルーディーゼル使用車両を1両導入 ・令和8年5月よりリニューアルブルーディーゼル使用車両を1両追加導入 HV車10両、EV車4両、FC車1両、RD車2両（令和8年5月末現在）	・2025年8月1日から9月30日まで、2025年12月21日から2026年2月28日まで名古屋鉄道と連携して、小児用manacaの利用運賃額（最大200円まで）をmanacaマイレージポイントで還元する「こどもmanaca おでかけキャンペーン」を実施
三重交通株式会社	・「グリーン経営認証」全営業所取得 ・低公害車両の導入 HV車（令和7年度16両、うち連節バス4両／令和8年度16両、うち連節バス4両） EV車（令和7年度8両、令和8年度13両） ・最新排出ガス規制適合車への更新	・環境定期券制度【定期券保有者が対象】 ・運転経歴証明書をお持ちの方はバス運賃半額、さらにバスを日常的にご利用される方は、セーフティバス（フリー定期券）を購入すれば、三重交通グループの路線バスが乗り放題【CO2削減】
名古屋タクシー協会	・名古屋交通圏のタクシー事業者における環境にやさしいタクシーの導入状況（令和8年3月末現在） ①HV車（導入事業者数54社、導入車両数2,261両＜全車両に占める割合48%＞） 内、トヨタJPNTAXI（LPG-HV）（導入事業者数53社、導入車両数2,095両＜全車両に占める割合44%＞） ②電気自動車（EV）（導入事業者数13社、導入車両数117両＜全車両に占める割合2%＞）（日産e-POWER搭載車除く）	—

3 令和8年度における施策の取組

名古屋市地域公共交通計画（令和6年3月策定）に記載している施策に基づき、取組状況を整理しました。

実施施策	2024	2025	2026	2027	2028	R8年度の主な取組（赤字は更新箇所）	
（１）公共交通による移動サービス水準の維持・確保							
① 求められる役割に合わせた公共交通の維持・確保					計画に記載	・令和6年度及び7年度に公共交通空白地を含む西福田学区において実施したデマンド交通実証実験について、公共交通としての持続可能性の観点から検証し、葉の役割を担う持続可能な交通支援制度を検討。	
					計画推進に資する	・日本版ライドシェア 名古屋交通圏において、令和6年4月から運行を開始した「道路運送法78条3号の許可による日本版ライドシェア（自家用車活用事業）」について、令和8年4月から曜日、運行時間帯を見直し運行継続中。	
②公共交通のわかりやすさ・使いやすさの向上と利用促進					計画に記載	・WEBサイトにおけるバスルートマップによる情報提供（名古屋市におけるバス路線図の作成） バスの利用促進をはかるため任意の停留所を選択し、その停留所を通過する系統の全てを地図上に表示する機能が追加された「なごや乗換ナビ」をWEB上で公開中。 ・引き続き、より便利に公共交通機関を利用してもらうために、「交通ガイドマップ」を複数区で作成予定。	
					計画推進に資する	・バリアフリールート情報提供 誰もが駅周辺の移動をスムーズに行えるための情報提供として、バリアフリーマップ公開中。 ・日本版ライドシェア【再掲】 名古屋交通圏において、令和6年4月から運行を開始した「道路運送法78条3号の許可による日本版ライドシェア（自家用車活用事業）」について、令和8年4月から曜日、運行時間帯を見直し運行継続中。	
③ ガイドウェイバスへの自動運転技術の実装					計画に記載	・自動運転技術の実装に向けた取組み 高架区間特有の課題（狭さ、急カーブ、横風など）解決に向け、車両制御の技術検証を実施。	
（２）地域の実情に応じた移動手段の確保							
① 交通支援制度を活用した新たな移動手段の導入					計画に記載	・令和6年度及び7年度に公共交通空白地を含む西福田学区において実施したデマンド交通実証実験について、公共交通としての持続可能性の観点から検証し、地域主体の取組に対する持続可能な交通支援制度を検討。	
（３）先進技術を活用したシームレスな移動環境の形成							
① AI技術を活用した新たな移動手段の導入検討					計画に記載	・西福田学区において実施したデマンド交通実証実験の結果をふまえ、新たな移動手段におけるAI技術の有用性を検証。	
② MaaSの実現					計画に記載	・西福田学区において実施したデマンド交通実証実験の結果をふまえ、新たな移動手段におけるMaaSアプリの有用性を検証。	
						・エリア版MaaSアプリ「CentX」においてSRTとの連携 名古屋駅-名古屋城ルートの情報配信、Webチケット等の販売による利用促進を実施予定 ・「標準的なバス情報フォーマット」に準拠した情報の整備 「標準的なバス情報フォーマット」に準拠した情報を提供中	
③ 環境にやさしい交通の促進					計画に記載	・市バスにおける燃料電池バスの試行導入（令和5年4月1日運行開始） ・なごや観光ルートバス「メーグル」における燃料電池バスの導入（1両目：令和6年3月31日運行開始、2両目：令和8年3月28日運行開始） ・市バスにおける電気バスの試行導入（令和8年3月25日運行開始） ・名鉄バスにおいて、リニューアブルディーゼル使用車両を追加導入（令和8年5月に1台） ・各交通事業者、公共交通利用促進に向けた取組を実施	
④ データを活用した移動実態調査・分析					計画に記載	・公共交通の利用状況等のデータを用いた現況調査等を踏まえて、まちづくりと連携した移動手段を検討	
⑤ 回遊性を高めるための新たな路面公共交通システム「SRT」の導入					計画に記載	・SRT「名古屋駅－栄」系統を運行 ・SRT「名古屋駅－名古屋城」系統の運行を開始（令和8年9月11日予定） ・エリア版MaaSアプリ「CentX」との連携	